

講座その3

1, それぞれの竹林の手入れと課題 & ときどき<雑学>

① モウソウチク・・・大きな課題は太くて切るのが大変なことと、筍が盗掘されるため竹林内を新しく更新するのが難しいことと旺盛な繁殖力です。よく車窓から見える山が竹に覆われそうになっている風景に出会いますが 100%モウソウチクです。盗掘予防には『mamushi注意！スズメバチ注意！』などの看板が良いのかも？旺盛な拡大を防ぐには、高く伸ばした筍の1m 切り(その2の②)などで対策していく必要があります。

<どの竹が何年目か、わかりますか？> ⇒⇒⇒

1年生は節の周りの環に白い粉が付き、稈は瑞々しく根元に皮が残る。2、3年生は環の白色が少し薄まる。4、5年生は環も稈も黒ずみ、稈はその後黄色味を帯びてくる。地下茎の寿命は意外と短く10年程で、最後は真っ黒でスカスカになる。 ↓



* 筍を出したあと「竹の秋」で黄変した葉は落葉しながら一気に若葉に早変わりするので、竹は常緑に見える。

* 伐った枝からきれいな先端部を取り、葉の落ち痕を数えて年数を知る方法もあるが案外分かりにくいし、たいていは伐る前に知りたいものであるから、上述のように環の色の变化で年数を見極めたい。

<伸びすぎのタケノコからメンマを作ろう>

- 皮をむき重量を測り、**その20%の塩**も測っておく
- 短冊に切り、**何も入れないお湯**で20分くらいゆでてからザルに上げ水切りして冷ます
- 保存袋に入れて塩をまがし **室温で**1週間くらい置く
- 白い発酵菌が付いたら**ネットに入れて干す(雨に当てない)



- 2週間くらいして乾燥したら冷蔵庫に保存し、食べるぶんだけ**塩抜き**して、ごま油、酒、水、しょうゆで煮ると自家製メンマの出来上がり！ズクズクした歯ごたえはモウソウチクが一番なので、伸びすぎたモウソウチクを最後まで利用しよう

② ハチク・・・2004年当初はフジ蔓に覆われて多くのハチクが斜めになっていました。地表にはフジの根が縦横に走っていて「混みあうと地下茎が入りこんで上部に張り巡らされるので、地盤が弱くまっすぐに立てない状態」(渡邊氏)にあり、紫色の雲紋竹菌(うんもんちくきん)が付き不健康なハチク林でした。→→→→

その後は黒穂病(くろほびょう)にもかかり枝を短く切って袋に詰めて焼却に出すという困難な作業を10年ちかく強いられた場所です。 ↓



大木を避けて竹林の場所を西へ移動させ、病竹を全て伐ると細い竹ばかりのさびしい竹林になってしまいましたが、チップを敷き込み、今後は筍を残して健康な竹林に蘇らせようとしています。 →



←元のエリアは再生竹を毎年伐り続けようやく勢いは弱まりました。

南側は明るい草原でしたが、ハチクが侵出してしまったので1m 切りで皆伐しています。 ↓



ハチク林にオオハナワラビが見つかり保護しています



クロボ病のハチクの葉



<ハチクの竹チップは最高！！>

2022年ハチクにチップパーが入った日は大雨で、おかげで大量のチップが土中で白く発酵しました。それを病竹が残る竹林エリアに敷いてやったところ、チップの殺菌作用と土壌改良効果なのか、土着菌の力なのか、2025現在は黒い穂が出ていないようです。

発酵チップの力は絶大でベランダの野菜栽培でも虫が付かず収穫が上がります。竹林エリアにも敷いて、良いタケノコを育てたいものです。

白く発酵したハチクのチップ



<ハチクとモウソウチクの見分け方は？>

・モウソウチク…白っぽい薄緑の稈…節は一冠(単環)

・ハチク………白っぽい薄緑の稈…節は二冠(双環)

*高さは見えないし、太さは様々でわからないな～？

当地の竹林は自然林なので、同じ種類なのに太い竹と細い竹があり、鮮やかな色と暗い色の竹が混在しています。それは同じ地下茎からの栄養のせり合いによって同年でも太さが違い、年齢によっても差が出るのと、自然林は変異が起きやすいからです。そのため、細いモウソウチクとハチクはそっくりで判らないことがあり、一冠か二冠かを見るわけですが、その方法は『冠の上を爪でゆっくり搔くと、一冠はカチッと一回で乗り越えるが、二冠は細いミゾに爪がはまり二回越え』となります。

それでも分からない場合があるのですが、ただ竹は他の竹種の中に単独で紛れ込むことはないの、まわりの竹を見れば判断できます。より確実に知るには竹の根元にタケノコの皮が残っている1年生の竹を探します。



皮には明らかな差があるので、その一帯がハチクなのかモウソウチクなのかが分かります。↑

★竹の判定は……1本見て悩まず周りを見るべし！

③ ホテイチク

くらしの森の中には2か所にあります、中道のトウチクの南側にあるホテイチクは暗くて特徴が見えにくいので、今後はソバ畑の東に拡大中のものを残すほうが良いかとか？と観察中です。

稈は細め、根元の節間が短く詰まって脂肪がたまり、布袋さんのお腹のようだとこの名がついていますが、(写真左)のように見事に膨れているものは実際には少ないです。

また竹のなかで最も下から枝が出るので、枝払いは厄介ですが、30度くらいの角度で枝がまっすぐに付き、独特の形状を示すのですぐわかります。(写真右)



ホテイチクはキッコウチクに変異することがよくあり、葉や根元の詰まった形状からは間違いなくホテイチクであるのに、節の模様がキッコウチクである竹があります。変異するのは下部だけですが、タケノコを取って見るとタケノコもすでに亀甲の模様になっていました。『タケノコの時にすでに一生の形が出来ている』という竹の性質がわかります。細いですが食用にもなる竹です。



④ マダケ

当地に2か所あり、写真左はハンノキ湿地入口のマダケ林、写真右は東邦高校西側のマダケと雑木林です。



ハンノキ湿地のマダケは近年2回チッパーが入り、かなり整備が進みましたが、散策路を越えた向かい側のモウソウチク林に侵出してしまったので、その皆伐が課題となっています。この

場所は道路に近く人通りが多いため、伐ったまま放置されているマダケも後を絶ちません。

しかし一番の課題は東邦高校側にある長年放置してきた雑木林内のマダケです。

←左の図は2000～2002年「なごや東山の森づくり協議会」に示された平和公園資源マップの一部です。

2024年に一つのきっかけがあり、改めてこの一帯がハンノキ湿地の集水域の最上流部にあることが認識されて、定例会による手入れが再開されました。



入ってみると再生竹が1本もなく、今までこの区域のマダケは伐られたことがないのがわかります。広域なので大変ですが、企業の CSR の協力も得ながら、定例会と竹班の活動として力を入れていくことになります。ハンノキ湿地の水源エリアの2か所ある湧水源が、ちょうどマダケのある雑木林にあったことになります。上田氏の実験によるとマダケ1本の吸水量は1日 4 リットルもあるそうですから、マダケを皆伐すれば相当に地下水の涵養を助けるのではと期待しています。

マダケの枝の空洞



穂先タケノコはアクが少なく食用に



門松に最適な濃い緑色



<マダケの緑を保つ方法は？>

竹を伐るとたちまち葉がチリチリに乾いてしまいましたが、緑の葉を保つ方法があります(竹の水揚げ法)
マダケの枝を伐り、節間の上のほうに電動ドリルで穴をあけます。

写真では穴が1個しか見えませんが出来るだけ全部の節にあけ、その穴にスポイトで水を入れてから、花瓶などに挿して保存します。節部にたまった水は稈の内壁からゆっくりと吸い上げられて葉に届きます。



この写真の葉は約1か月間きれいな緑色がキープされたので、イベントの展示に使うときなどに良い方法です。細くて穴があけられない場合は、酒を入れた水に挿すのも有効だそうです(上田)



*竹はお酒好きなんですね(笑))))